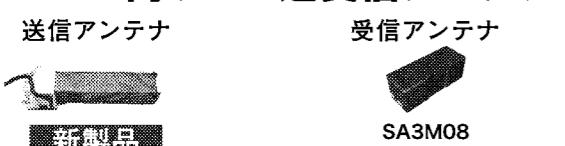


GTOKO

未来をつくる東光のテクノロジー

## クルマの安心・安全・利便性をサポート

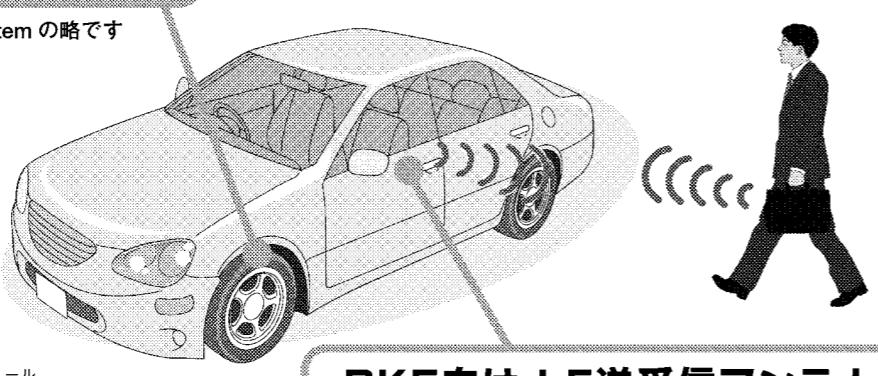
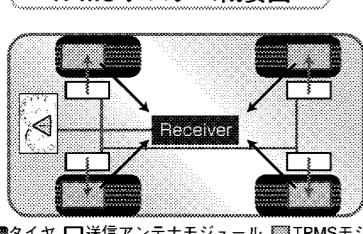
## \*TPMS向け LF送受信アンテナ



- 防塵、防水仕様
- コネクタおよび車体固定用取り付け穴付き一体ケースを採用
- 狹共振周波数公差対応 (F0±1%)

※TPMSは、Tire Pressure Monitoring System の略です

TPMSシステム概要図



東光株式会社 〒350-2281 埼玉県鶴ヶ島市大字五味ヶ谷18 TEL.049-285-2511 http://www.toko.co.jp/

小寺電子製作所の自動車ハーネス新製造システム「ANS」は使う電線が白色のみで識別用のカラーで着色し、受注順にハーネスを1個流して生産できる。多色電線の使用によって色換えが必要となり、圧切機の稼働率を下げないためロット生産と期待できる。最大8倍の生産性が

小寺電子製作所の自動車ハーネス新製造システム「ANS」は使う電線が白色のみで識別用のカラーで着色し、受注順にハーネスを1個流して生産できる。多色電線の使用によって色換えが必要となり、圧切機の稼働率を下げないためロット生産と期待できる。最大8倍の生産性が

小寺電子製作所

有力企業の製品・技術

東光

自動車のエレクトロニクス化が進展し、電子制御部分が増えていることから、誤動作を防ぐため回路設計や構成部品に対する電磁ノイズはマーキングを自動で着色し、受注順にハーネスを1個流して生産できる。多色電線の使用によって色換えが必要となり、圧切機の稼働率を下げないためロット生産と期待できる。最大8倍の生産性が

東光はタイヤ空気圧監視システム(TPMS)、パシフィック・キース・エンジニアリング(PKE)向け商品の開発・量産を進めている。TPMS向けには受信アンテナコイルおよび送信アンテナモジュールの量産を開始。さらなる売り上げ拡大に向け取り組みを開拓した。PKE向けには新たに送信アンテナコイルの開発を行った。従来の受信アンテナコイルをさらに

東光はタイヤ空気圧監視システム(TPMS)、パシフィック・キース・エンジニアリング(PKE)向け商品の開発・量産を進めている。TPMS向けには受信アンテナコイルおよび送信アンテナモジュールの量産を開始。さらなる売り上げ拡大に向け取り組みを開拓した。PKE向けには新たに送信アンテナコイルの開発を行った。従来の受信アンテナコイルをさらに

## 安全・快適・環境性能を向上させる

## 自動車用電子部品

## プリクラッシュセーフティー

トヨタ自動車のプリウスやアクリア、ホンダのフィットなど、ハイブリッド車(HV)やプラグインハイブリッド車(PHV)といったガソリンエンジンとモーターの併用車両は珍しくなり、日産自動車のリーフや三菱自動車のアイマーブのような電気自動車(EV)も見かけるようになってきた。より一層の安全性や快適性の向上、環境負荷低減を目指して、次世代車は電子化、IT化が進んでいく。

衝突事故をなくすことを考える上で一番の課題だといえる。そのため、「予防安全」という考え方を導入した安全装備が開発されている。衝突を事前に察知し、衝突被害を軽減する「プリクラッシュセーフティーシステム」はその代表的な例だ。

車両前方に取り付けられたレーダー やセンサー、カメラといったデバイスが収集した情報から車載コンピューターが走行中に前方走行車両や障害物との衝突事故が発生しそうだと判断した場合に察知し、衝突被害を軽減する「プリクラッシュセーフティーシステム」はその代表的な例だ。

ノイズ対策が重要に

## エレクトロニクス化進展

次世代自動車は先進的安全機能や低燃費化を目的とした車両重量の軽量化などによってこれまで有線・無線通信を利用する装備が導入されている。

車両前方に取り付けられたレーダー やセンサー、カメラといったデバイスが収集した情報から車載コンピューターが走行中に前方走行車両や障害物との衝突事故が発生しそうだと判断した場合に察知し、衝突被害を軽減する「プリクラッシュセーフティーシステム」はその代表的な例だ。

## 衝突被害を軽減

トヨタ自動車のプリウスやアクリア、ホンダのフィットなど、ハイブリッド車(HV)やプラグインハイブリッド車(PHV)といったガソリンエンジンとモーターの併用車両は珍しくなり、日産自動車のリーフや三菱自動車のアイマーブのような電気自動車(EV)も見かけるようになってきた。より一層の安全性や快適性の向上、環境負荷低減を目指して、次世代車は電子化、IT化が進んでいく。

トヨタ自動車のプリウスやアクリア、ホンダのフィットなど、ハイブリッド車(HV)やプラグインハイブリッド車(PHV)といったガソリンエンジンとモーターの併用車両は珍しくなり、日産自動車のリーフや三菱自動車のアイマーブのような電気自動車(EV)も見かけるようになってきた。より一層の安全性や快適性の向上、環境負荷低減を目指して、次世代車は電子化、IT化が進んでいく。

トヨタ自動車のプリウスやアクリア、ホンダのフィットなど、ハイブリッド車(HV)やプラグインハイブリッド車(PHV)といったガソリンエンジンとモーターの併用車両は珍しくなり、日産自動車のリーフや三菱自動車のアイマーブのような電気自動車(EV)も見かけるようになってきた。より一層の安全性や快適性の向上、環境負荷低減を目指して、次世代車は電子化、IT化が進んでいく。

トヨタ自動車のプリウスやアクリア、ホンダのフィットなど、ハイブリッド車(HV)やプラグインハイブリッド車(PHV)といったガソリンエンジンとモーターの併用車両は珍しくなり、日産自動車のリーフや三菱自動車のアイマーブのような電気自動車(EV)も見かけるようになってきた。より一層の安全性や快適性の向上、環境負荷低減を目指して、次世代車は電子化、IT化が進んでいく。

トヨタ自動車のプリウスやアクリア、ホンダのフィットなど、ハイブリッド車(HV)やプラグインハイブリッド車(PHV)といったガソリンエンジンとモーターの併用車両は珍しくなり、日産自動車のリーフや三菱自動車のアイマーブのような電気自動車(EV)も見かけるようになってきた。より一層の安全性や快適性の向上、環境負荷低減を目指して、次世代車は電子化、IT化が進んでいく。